

# 第2期鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会WS

R6.10.21 A班  
高橋委員、鈴木委員、今野委員、  
佐藤委員、宮田委員

テーマ 10年後どんな地域コミュニティになっていたか。また、達成するには誰がどんな役割を担えばよいか

## <どんな地域コミュニティになっていたか> 基本理念（新規）

○市民・市政が協働して ○市民が安心に、未来に期待を持って暮らせる地域コミュニティの構築

## <目指す地域コミュニティ、誰がどんな役割を担うか>

### 残したいワード

- ・市民がまちづくりの主体（住民主体）
- ・地域ごとの異なる文化、歴史を尊重
- ・笑顔であいさつを交わす心の通った
- ・より良い地域環境を築くため皆が力を合わせる

### 担い手として期待できる、もの、こと

文化の継承、第三者の協力、高齢者が地域の歴史を伝える役割

### 自治組織の担い手

- ・中核は今後60歳代になるのでは？70歳代か？
- ・女性の登用

### 自治組織×○○との連携

- ・複数地区（他地区）での運営（集落）
- ・NPO等との連携 ・他学区との交流

### 担い手として参加してもらうには

- ・地域でつかえるポイント付与
- ・声掛け（個人的に） ・予算の割り当て

### キーワード

- ・共生 ・世代を超えてお互いに ・SDGs

### 担い手

- ・スマホ教室や小学生の塾の先生、イベント提案や運動会など高校生に（未来の戦力） ・産学官民との連携
- ・地域と学校との交流減
- ・学社連携での育成事業

- ・地元民×短期移住者が 住みやすい環境作り

### 担い手の課題

- ・地域活動の担い手不足
- ・コミュニケーション不足
- ・市政への関心が低い
- ・結婚、子育てへの不安
- ・教育機関の選択肢が少ない
- ・情報格差

### 新規ワード

- ・安心、安全
- ・空き家増加、美化環境の保全
- ・多様性を尊重し合うことのできる
- ・若者の定着、人口減少
- ・教育の充実
- ・結婚、子育て、教育に不安なく未来に期待の持てる地域コミュニティ
- ・情報格差を是正し、適切に地域情報を取捨選択できる地域コミュニティ
- ・住民交流の強化
- ・地域行事への参加しやすい環境作り

### 担い手

- 【行政】若者の交流機会の創出（イベント関係）
- 【行政×地域コミュ】子育てサポート強化
- 【市外転出】特に祭りへの参加
- 【行政】教育環境の改善・決まりの見直し（例：スクールバス対象者の範囲見直し（汗だくで遊学、市街地への転出）
- 【行政×地域コミュ】スマホ教室の開催（若手中心・高校生など）

### 担い手への働きかけ

- 【行政】市議会議員や市職員との交流機会
- 【行政】投票済の方へのクーポン配付

# 第2期鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会WS

テーマ 10年後どんな地域コミュニティになっていたか。また、達成するには誰がどんな役割を担えばよいか

R6.10.21 B班  
遠藤委員、渡邊委員、  
高橋委員、清野委員

## <どんな地域コミュニティになっていたか>

### 関心・自分事（基本方針に盛り込みたいこと）

- ・他人事ではな「自分事」としてとらえられる計画⇒関心が持てる
- ・住民が「主体的」に取り組む地域コミュニティ⇒自分にできることを確認する（個人の項目）
- ・市民がまちづくりの主役・知的興味を持ち自らを更に高めようとする人達が暮らすまち⇒駅裏にたくさんいる⇒コミュニティに関心を
- ・関心をもつことが大事！
- ・皆が関心を持つことが大事
- ・住んでる人だけでなく、「企業」にも関心を持ってもらう地域
- ・行政に頼らない、「主体性」を持つことが大切
- ・主役・主体的は必要
- ・地域課題の解決に主体的に取り組む
- ・地域リーダーが誇りをもち、それを支える住民がいる街
- ・他者への関心

### コミュニケーション（基本方針に盛り込みたいこと）

- ・明るく生き生きとした地域
- ・皆が力を合わせる地域コミュニティ
- ・助け合うことができる地域
- ・仲の良いコミュニティ
- ・方言が残る会話で心和む街・心が通ったコミュニティ
- ・コミュニケーションが円滑
- ・笑顔であいさつ交わす明るい地域  
(あいさつおじさんの奨励) ⇒当たり前⇒  
笑顔であいさつを言葉にしなくてもよい

### 環境（基本方針に盛り込みたいこと）

- ・地域課題解決は必要・安心・安全な環境
- ・より良い地域環境を築く
- ・鶴岡ならではの内容が大切

### 盛り込むことに課題があるもの

- ・個性あふれ豊かさを実感は難しい
- ・地域の環境はわかりにくい、わかりやすい言葉にする
- ・「豊かさを実感」はいらぬ
- ・短いフレーズでも良い

### 発信（基本方針に盛り込みたいこと）

- ・発信（自分だけで思っていない）大切

### その他（基本方針に盛り込みたいこと）

- ・若者たちがこの地に生まれたことに誇りに感じ帰って来たくなる街
- ・消滅した後に「あそこはいい街だった」と言われるような懐かしい街

### 街（基本方針に盛り込みたいこと）

- ・ゆったりとした時間が流れるこじんまりとした落ち着いた街⇒こじんまり⇒小さくてよい街
- ・山にも海にもすぐに行けて楽しめる自然あふれる贅沢な街
- ・他者にたいしてもいつも温かい眼差しを送っている市民の街
- ・古い文化・資産を大切にしたい歴史の薫りたつ街
- ・藤沢周平の小説の会話がそのまま今でも聞ける味わいのある街
- ・観光客、外来者、外国人、一時滞在者もなんとなく住み心地がいいと感ずる街
- ・「ここよりも美味しい食べ物はない」と感じその味をそっと楽しめる街
- ・食の都だけではなくここにいることを大切に思える

# 第2期鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会WS

R6.10.21 B班  
遠藤委員、渡邊委員、  
高橋委員、清野委員

テーマ 10年後どんな地域コミュニティになっていたか。また、達成するには誰がどんな役割を担えばよいか

## <誰がどんな役割を担うか>

### 担い手・学校、学生

- ・若い世代の意見も取り込んでいく
- ・小中高生も一人の市民として捉え市を知ってもらう
- ・“市民”であることを認識してもらう
- ・中学生、高校生をひとりとして活動に参加してもらう
- ・小中高生にも役割をもってもらおう
- ・学校、教員、子ども達との連携⇒学校が教育内容の消化に汲々として、地域と疎遠になっている。「こんなことを一緒にやり（でき）ませんか」という提案をして、教員と子どもの目を地域に向けさせる。地区と学校がもっと手を結ぶ
- ・学校もとり込みながら進めていく
- ・小、中で地域について学習する

### 担い手・地元にはいないファン

- ・「鶴岡市のファン」の有効活用
- ・地元にはいない人にも関心をもってもらおう取り組み
- ・地元にはいない人にも地元に対して出来る事を考えてもらう

### 担い手・行政

- ・市民の「声」を書き込める場⇒市民が施策に対して疑問に思ったり意見を出したりする「声の場」がウェブ上であれば、一つのコミュニティの場となる。異論があるのは当然であり、とにかく、語り合う場、考える場として作る
- ・取り組みを部局横断的に統合⇒コミュニティ作り、活性化は人口減や少子・高齢化の問題と軸を一にしている。コミ推の論題をそれらと繋げる。情報連携を確実に実行、実効性の高い「10年後ビジョン」を作る
- ・図書館を魅力的な場所に⇒図書館を市民が集える楽しく交流できる場所にする。図書館が図書以外にもコンスタントに知的な魅力を発信するセンターとなる。観光客も立ち寄り、飲食もできる「市民が常に気になる図書館」にする
- ・市が気になる図書館が大切

庄内日報  
クレードルを  
残していく

### 担い手・自治会、コミュ組織

- ・地域内のボラの育成 ・役員を固定化しない
- ・他のコミ組織との活発な交流⇒合併を意識した計画作り
- ・自治会での「地区の未来を考える会」等の募集し、小中学生も入れる（取り込む）

### 担い手・発信

- ・市・コミセンのウェブ機能向上⇒コミセンにウェブ技術を持つ人が入る。または、職員のウェブ技術を高める。「電子町内会情報」をメール一斉配信する。防災情報も随時配信。10年すればそれができるはず。市広報をウェブでも配信する
- ・コミセンもHPを作る（防災もできる）
- ・身近な人の活躍を発信する
- ・「頑張っている人」を広報紙でつたえる、魅力ある人を紹介する
- ・SNSも活用していく
- ・デジタル化できる人を導入して、どんどん進めるべき

### 担い手・企業

- ・企業主催のおもしろイベントによる発信。市民の関心高める
- ・企業が人材を出してくれる
- ・企業がどう関わるか具体化する
- ・地域内の企業・事務所にも参画してもらう
- ・企業としてできることも項目にいれる
- ・サイエンスパークからの発信
- ・鶴岡ならではの見える化 ・企業の社会貢献